

1. 略歴

- 1998年4月 東京大学教養学部 文科三類入学
- 2002年3月 東京大学文学部思想文化学科 倫理学専修課程卒業
- 2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻 倫理学専門分野修士課程入学
- 2005年3月 同 修了
- 2005年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻 倫理学専門分野博士課程進学
- 2008年3月 同 単位取得退学
- 2008年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD) (～2011年3月)
- 2011年2月 博士号 (文学) 取得 (東京大学)
- 2013年4月 新潟大学人文社会・教育科学系 准教授 (～2017年3月)
- 2015年4月 放送大学 客員准教授
- 2017年4月 専修大学文学部 准教授 (～2019年3月)
- 2019年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

倫理学原理論・近現代西欧倫理思想

b 研究課題

言語、心、行為をめぐる諸概念の倫理的考察

c 概要と自己評価

英語圏とドイツ語圏における近現代の哲学・倫理学全般を研究しているが、特に重点を置いて取り組んでいるのはルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインである。彼の思考の全体像を把握する試みを中心軸に据えつつ、主に倫理的関心の下で、関連する言語論や心の哲学、行為論といった分野に関する研究も展開している。その方向性は大きく分けて、ウィトゲンシュタインの「以後」と「以前」に分かれる。「以後」に関しては、主にドナルド・デイヴィッドソン、スタンリー・カヴェル、バーナード・ウィリアムズといった、ウィトゲンシュタインの影響を受けた英語圏の哲学者・倫理学者の思考を検討している。「以前」に関しては、ゲーテ、ショーペンハウアー、カール・クラウスといった人物がウィトゲンシュタインに与えた影響および相違と、そこから見えてくる視角を追っている。

また近年では、運と道徳の相克、また、懐疑論と実在論の相克という大枠の問題圏をめぐる、古代から現代に至る倫理思想史全体を振り返る作業も進めている。

d 主要業績

(1) 著書

単著、古田徹也、『言葉の魂の哲学』、2018.4

単著、古田徹也、『ウィトゲンシュタイン 論理哲学論考』、KADOKAWA、2019.4

単著、古田徹也、『不道徳的倫理学講義：人生にとって運とは何か』、筑摩書房、2019.5

(2) 論文

古田徹也、「共同行為論の射程：分析系の議論を中心に」、『現象学年報』、34、3-14頁、2018.11

古田徹也、「まだ説明は終わっていない：意志の自由をめぐるウィトゲンシュタインの思考」、『実存思想論集』、34、63-83頁、2019.6

(3) 学会発表

国内、古田徹也、「分析系の人生の意味論とウィトゲンシュタイン」、哲学会第57回研究発表大会・ワークショップ「ウィトゲンシュタインの現在」、東京大学本郷キャンパス、2018.11.3

国内、古田徹也、「「シューベルトという名前はシューベルトにぴったり合っている」：ウィトゲンシュタインの言語論と翻訳の問題」、シンポジウム「批評と文学の他者：固有名と翻訳をめぐる」、神戸大学、2018.11.18

国内、古田徹也・宮崎裕助・渡邊京一郎、「「運」とともに／「運」に抗して——古田徹也著『不道徳的倫理学講義』を読む」、第35回新潟哲学思想セミナー、新潟大学五十嵐キャンパス、2019.9.13

国内、古田徹也、「〈言葉がしっくりくる〉とはどういうことか——言語・懐疑・プロパガンダ」、第44回明治大学人文科学研究所公開文化講座「ことばと政治——いま、哲学は人間をどう問うているのか」、明治大学駿河台キャンパス、2019.10.19

(4) 会議主催(チェア他)

国内、「実存思想協会第34回大会講演会」、チェア、ワイトゲンシュタインと実存思想、立教大学、2018.6.23

国際、「The 11th BESETO Conference of Philosophy」、チェア、東京大学本郷キャンパス、2019.6.28~2019.6.30

国際、「2nd International Conference on Philosophy and Meaning in Life」、チェア、早稲田大学早稲田キャンパス、2019.10.7~2019.10.9

(5) マスコミ

「知の巨人たち「ワイトゲンシュタイン」」、『 α シノドス、vol.239』、2018.3.1

書評：『4歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから生還した』、『共同通信配信記事』、『新潟日報』ほか全国12紙に掲載、共同通信社、2018.6

「誠に遺憾に存じます」、『朝日新聞』、2018.10.26

「ワイトゲンシュタイン『青色本』と哲学の愉しみ」、『アカデミスト』vol.1、16-17頁、アカデミスト、2019.6.1

「多士オ々」、『共同通信配信記事』、共同通信社、2019.6

「古典をもっと、ずっと開かれたものに」、『カドブン』、KADOKAWA、2019.6.21

「言葉の主題化：広告コピーが豊かな表情を宿すのはなぜか」、『販促会議』2019年8月号(256号)、67-70頁、2019.7.1

「もろさ認め、言葉に責任を」、『共同通信配信記事』、共同通信社、2019.8

「運に向き合い、倫理を問いなおす——『不道徳的倫理学講義』(ちくま新書)刊行を機に」、『週刊読書人』2019年9月6日号(第3305号)、2019.9.6

「感謝することの意味を考える。」、『アンドプレミアム』2020年1月号(&Premium No.73)、53頁、マガジンハウス、2019.11.20

「ほんとうの言葉／それぞれの踏み跡」、『週刊読書人』第3328号、1-2面、2020.2.21

(6) 受賞

国内、古田徹也、第41回サントリー学芸賞(思想・歴史部門)、サントリー文化財団、2019.12.9

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、朝日カルチャーセンター、「ワイトゲンシュタインの哲学問題：「言語」篇」、2018.7~2018.9

非常勤講師、専修大学、「倫理学概論」、2019.4~2020.3

非常勤講師、専修大学、「ゼミナール(1, 2, 3)」、2019.4~2020.3

放送大学、「経験論から言語哲学へ」、2019.4~

セミナー、朝日カルチャーセンター、「ワイトゲンシュタインの哲学問題：「倫理」篇」、2019.7~2019.9

非常勤講師、新潟大学、「倫理学」、2019.8

(2) 学会

国内、哲学会、一般会員、2018.11~

国内、日本倫理学会、評議員、2019.4~、年報編集委員・和辻賞選考委員、2019.9~

国内、実存思想協会、幹事会メンバー、2019.8~